



産学公連携コーディネータに聞く

中小企業の技術開発や製品開発の過程でさまざまなサポートをする都産技研の「産学公連携コーディネータ」。日頃受ける相談や、サポート内容の実際をご紹介します。

小西 穎 コーディネータ 本 部



Profile

KHE代表。東芝など数社で研究開発、事業開発、研究所マネジメント、医療事業の事業計画、技術開発などに従事。平成24年4月から産学公連携コーディネータに。現在は、カナダ・アルバータ州政府認定登録国際ビジネスコンサルタントとして技術やビジネスの連携を国際的にサポート。

小西CDの担当曜日
毎週月曜日9時～17時

依頼者は常に新たなチャレンジをする経営者だから、どんな課題の依頼も相談に乗ります

都産技研の産学公連携コーディネータ(CD)に中小企業の経営者から寄せられる相談は、新規事業へチャレンジすることから生じる問題に関するものが多く、内容も多岐にわたります。具体的には、

- 事業目的に合った技術の提供、または協力会社の紹介
- 新たな発見をしたので、それを解明してくれる大学の先生の紹介
- 新規事業をするために必要となる技術や研究の調査
- 事業計画の作成方法の指導
- 特定製品の開発を依頼できる協力先の探索等です。

いずれも切実なご要望ですので、「どのような依頼にも、必ず対応し返答する」というのが私のモットーです。

そして、相談の中から何が課題であるかを分析し、問題解決に直接つながるサポート内容や方法を考えることが、コーディネータの役割だと考えています。

難しいのは、やはり何が問題点なのかをはっきりさせることです。規模が大きい案件だと、どこを切り口に考えたらいいか迷うことがあるのですが、事業計画を書くなどして検討することが大事だとお伝えするようにしています。大学や他の企業などに協力を求める場合は切り口を特定した上で、どのように提案するかを依頼者と一緒に考えますね。

依頼先の大学などは、都産技研からの相談や依頼ということで、協力的で、かつ真摯に検討してくれます。ニーズが合えば、共同研究や共同開発の決定も早い。その点も、都産技研を活用するメリットであると言えます。

● 事例紹介

A社の場合〔産産連携の例〕

A社は、特殊な電気ワイヤを開発。その応用製品として携行機器を開発していますが、電源の消費量が問題になっており、解決を望むという相談がありました。

相談→共同研究までの経緯

- 小西CD、低消費電力を実現する技術を調べて、適合する電気回路をA社に提案。
- A社、携行機器のサンプルを試作後、ビジネス展開について相談。
- 小西CD、サンプル評価をしてくれるB社を紹介。
- B社、フィールド評価試験中。
- 小西CD、携行機器がバッグ型のため、繊維製品評価やアパレルデザインを扱う都産技研の墨田支所にも協力を依頼。縫製技術についてのアドバイスを行う。



小西
CD

電気・電子回路は私の専門分野の一つ。大学との共同研究を多数行ってきた経験を生かして、具体的なアドバイスも行います。

Message 中小企業の皆さんへ



ビジネスはシーズたる基礎技術から始まり、製品やサービスの事業計画を経て実際の事業が始まります。事業も、初期製品で終わるのか、シリーズ化を図るのか、ひとつのサービスなのか、多様なサービスまで事業化するのか、その時の経営資源や需要と市場規模の状況で変わります。その時々会社の資源と市場ニーズに合ったビジネスをアドバイスし、サポートすることができますから、都産技研の産学公連携コーディネータを長期的に利用していただきたいですね。

継続的でも断続的でも、長く利用していただくこと。それが、依頼に来られた中小企業のお客さまにとって、メリットが大きいと思います。